

## スパイウェアについて (2)

現在スパイウェアはどのように考えられているのでしょうか。前回も書きましたが、スパイウェアは2つに分類することができると思います。1つは購入したりフリーウェアとして配布されたりしているアプリケーションにセットで配布されているもので、もう1つがひそかに入り込むものです。特に問題になっているのが後者のひそかに入り込むタイプのもので、対処するプログラムも販売されています。しかし、スパイウェアはアプリケーションインストール時に承諾を取って(たとえ形式的にしても)こっそりインストールされるものもあるため、ウィルスではないということで、基本的にはウィルス検知ソフトでは検知することができません。アプリケーションと同時にインストールされるものの動作としては、ウェブの閲覧記録やメールアドレスなどで、このデータを利用したものとしては、ユーザの嗜好に合わせたポップアップ宣伝の表示などがあります。使っている人に合わせた情報を提供しようとするもので、これも問題にできない項目です。そこで基本的にはスパイウェア対策ソフトの登場ということになります。確かに、このごろのウィルス対策ソフトでも「スパイウェア対応」をうたったものもありますが、実際は不十分といわれています。それは、専門ソフトが14万のスパイウェアに対応するのにに対して、ウィルス対策ソフトが対応している数百という絶対数の違いでもわかります。

スパイウェアの検知についてですが、ウィルス対策ソフトと同様にパターンファイルにより検知しています。このパターンファイルを最新にすることによって新しいスパイウェアに対応するのですが、最新のウィルス対策ソフトに追加された新機能としてのスパイウェア対策では主だったスパイウェアのみが対象で、最新のものなどについては十分な対応がなされていないのが現状です。では、専用の対策ソフトとしてはどのようなものがあるのでしょうか。製品としては「PESTPATROL」というものがあります。この会社では、スパイウェア、トロイの木馬、ハッカーツールなどをペストと呼び、これに対処するものとしてあります。20,112のペストファミリーから123,113のペストを検出することが可能で、もちろん削除、検疫も可能で、レジストリからトロイの木馬、スパイウェアの削除も可能です。クライアントでのローカルでの使用もサーバにインストールして(クライアントにインストールしないで)使用することもできます。削除といっても前に書きましたが、スパイウェアとして削除してしまうとアプリケーションの動作に問題が発生することもありますので、削除、隔離がマニュアルで設定でき、隔離されたもの(動作できなくなっている)が、アプリケーションを使っている問題なければ削除するという、2段階で処理することになります。その他に有名なフリーウェアとして「AdAware」があります。日本語化パッチも公開されていて、定義ファイルも開発者から公開されています。AdAwareの場合は個人ユーザ対象であるので各端末ごとに設定、処理(検出されたものを駆除するか隔離するかなど)する必要があります。

スパイウェアは実態はよくわかりませんが、いろいろなものに含まれている可能性があります。困るのは、ホームページにアクセスすることによりファイルがダウンロードされ、ページのアクセス記録だけならいいのですが、クレジットカードの情報や銀行口座番号、パスワードがまとめて外部に送信されてしまうことです(アダルトサイトによくあるようですが)。これからはウィルスだけでなく、スパイウェアにも対処する必要があるのかも知れません。(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 6月21日号

特集 一家に一台、映像ナビ

→大容量HDDの記憶媒体が普及したことで、大量のものがたまりつつある。氾濫した情報の中からどう選んで利用するか。自動抽出機能を使って関連のあるものを自動で選び出したり、楽しむための映像ナビが次に普及するか。

解説 液晶化ELかPDPかフルHDTVは色で勝負

→2005年にかけてテレビはフルHDTVに、表示色は10億色に。携帯電話はQVGAからVGAに、パネルは低消費電力と低価格化に向かう。

○日経パソコン 6月21日号

特集 お決まり作業は全自動で楽々

→HDDのバックアップ、OSのアップデートなど自動化すれば楽になる作業はたくさんある。決まりきったものなら全自動にするにかぎる。

特集 翻訳ソフト活用法

→インターネットで外国のページを見るために翻訳ソフトを利用することがある。その翻訳ソフトを使いこなすための4か条。

○日経バイト 7月号

特集 セキュリティ・ホールとの新たな闘い

→セキュリティ・ホールが見つかってからそこを突く攻撃プログラムが出てくるまでのタイムラグが短くなっている。なかなか防ぎきれなくなっている。セキュリティ・ホールがあることを前提にして、被害を未然に防ぐ対処方法は。

ラボ Virtual PC 2004はどのように動いているのか

→OSの上で別のOSを動かす。古いOSでなければ動かないアプリケーションを動かすためのVirtual PC。実際どのように動いているのか。制限事項はないのか。

○日経システム構築 7月号

特集 どんとこい仕様変更

→仕様変更はコスト、納期、品質に悪影響を及ぼすということで忌み嫌われてきた。しかし、変化の激しい現在、設計段階で使用をフィックスすることは困難になってきている。仕様変更は起きるものという前提に立ち、要求をうまくコントロールするにはどうすればよいのか。

特集 導入して見えてきたIPv6の実力

→IPv6を導入する下地は整った。IP電話やストリーム配信から企業に浸透していくと考えられる。導入コストはIPv4と同等だが、運用管理が課題となる。

○N+INETWORK 8月号

特集 SSLVPN導入・構築・運用時の疑問に答える

→インターネットを利用したVPNであるSSLVPN。「啓蒙」の段階は過ぎ、「調査・検討」の段階に入ってきている。これまでの基本的な

仕組みやメリットの話ではなく、実践に則した導入段階の疑問に答える。

○ASCII 7月号

特集 テラバイト時代の高密度HDD

→HDDは今400GBが登場し、テラバイト時代が目の前になっているが、そのほかにも一万回転、シリアルATA、RAID、NASなど話題がいっぱい。最新トピックの解説と活用テクニックを紹介。

○DOS/V magazine 7月15日号

特集 新Pentium4&Intel925X/915全貌解明

→インテルの新チップセットIntel925X/915が発表され、合わせてPentium4のCPUもLGA775パッケージが発表された。新チップセット(Pentium4の中身は同じ)で何が変わるのか。ベールを脱ぐ次世代プラットフォームを見る。